

摺 挨 摻

ほんとうの援助活動はこれから……………。

理事長 古今堂 紘

あの忌わしい阪神・淡路大震災が襲来して早や五ヶ月が経ち、この小冊子ができ上る頃には既に半年余が行き過ぎていることであろう。

しかしこの大惨事はあたかも古の出来事のような、また昨日起こったことのように、複雑な時間経過を辿って、今もなお私達の胸の中に在る。それだけこの大震災が今日までの私たちをして、かつて経験をしたことがない大きな衝撃を残したからに他ならない。

震災が起った翌日の朝、私は事務局長と連れ立って阪急西宮北口駅に立っていた。その行動を起した前提には、被災地に住んでおられる当センターの関係者の方々の安否を気遣う思いが託されていたことは事実であるが、何かじつとはしておれない或る種の強い衝動によって揺り動かされていたこともまた事実である。

そこで私達が目にした光景は、それまで刻々の報道によって報らされていたものとは大きく異なり、とても言葉で言い表すことのできない惨憺たる惨状なのであった。しかしそのなかで私の目に大きく焼きついたことは、給水車の前で長い行列を作っておられた被災者の方々の姿であった。少しでも早く、少しでも沢山の水を必要とされている状況のなかで、秩序正しく整然と並んで順番を待っておられる姿に胸を打たれ、日本人もまんざら捨てたもんじゃあないあとの思いを新たにした。

その後さまざまな報道を通じ、現代の若者達が進んでボランティア活動の先頭に立ち、真向から取り組んでいる姿を報らされた。常時、ラジカセとイヤホン、分厚いマンガの本を必携し、何があっても我関せずのイメージを強く抱いていた私の若者像は見事に覆された。日本の将来もまんざら見捨てたものじゃあないと……。

また諸外国からもいち早く、さまざまな形での救援活動の手が差し伸べられたことをも聞くにつけ、このような表現は被災者の方々にとって誠に不謹慎ではあるかも知れないが、この大災害をして日本人同志の繋り、世界各国との人間そのものの結びつきの認識を新たにしたのは決して私一人ではあるまい。

当センターは今日まで、ここにご紹介するいささかの救援活動に取り組んできた。そして私達のこのささやかな活動が数多くの被災者の方達にとって如何ほどのお役に立てたのかを計り知る術もない。しかし私達は私達の学んでいるカウンセリングの原点に立ち、「いま、ここ」の精神を柱に今日までの活動に懸命に取り組んできたことは事実である。

そして私達のこの一連の活動は、自らそのチーフ役を名乗り出て下さった飯田眞哉氏の豊かな統率の下に、また数多くのボランティア参加者達の文字通り手弁当での積極的な行動力に支えられて今日を向かえるに至ったことをたいへん嬉しく思う。

ご挨拶

しかしその間の活動には、本部（当センター）も何せ初めての経験でもあり、ご参加のみなさま方にはさまざまなご苦労をおかけしたことも数多く、また折角参加の意志を表されながらもタイミングが合わなかったり、情報交換の不徹底によって、不本意のまま今日に至っておられる方々の存在も忘れてはならず、今、ここに全ての方々に對し、改めてそのお詫びと深い感謝の意を表したい。

しかし被災者の方々へのほんとうの意味での援助活動はこれからが始まりである。それは被災者の方々の持たれる意識が「生きる」ことから「生活する」意識へと転換することの必要性が待たれているからに他ならない。「生活する」そのことは文字通り、生きることに活力を与えることなのである。今回の大震災によって実に多くの方達が物心両面に亘り筆舌には尽し難い大きなものを失われた。そしてその多くの方々に今求められていることこそは、これからの人生に如何に活力をもって生き抜いていくかの大きな勇気とエネルギーを持っていただくことなのである。そしてそのことの達成のためには、今こそ行政を軸とした全ゆる組織の結集と善意に満ちた豊かな人々とのネットワーク作りが不可欠なのであり、私達カウンセリングを学ぶ者達としてこのことへの何等かの役割が果せたらと願わずにはいられない。

その意を込めて、私達のこの援助活動はこれからが始まるのであり、よってみなさま方の今後のより積極的なご協力を切望するのである。

そして全ての被災者の方々が、こぞってこの苦難に立ち向われ、克服されんことを祈りつつ……。